

# こぶし

no.15



上越こがし山の会

# アルプスの民話

## 入道の話

むかしむかしの話です。

黒部溪谷をさぐる途中に鐘釣がゆつめの湯があります。

ある夜むかしの、ここに宿をとってゐたのです。夜明けの敵策

の折、客のむこうから、朝のひかりがさしてきました。

すると、笑い声がするのです。大入道がたくさん大口をあけ

てたちをさんでゐるのです。

またある日のことです。

旅の僧が無縁仙の石へ供養をしてゐると、たくさんの大入道

が坐つて、合掌をはいめたというのです。

(黒部溪谷)

## 目次

巻頭言 1-3

車山局より 4

大衆山行を終えて

田中達 5

大島美昭 6

谷川穴山行 6

他サールからの中入れ 7

新入会員 7

戸田不後記 7

# 『』の計画か『』の計画か

杉本敏宏

最近の会の運営などを見ていて、ひとつ気になることがある。県連内の他の会と比較した時、特にそのことが気になるのである。そのこととは何かというと、「表面的なまとまりの喪失に悩まばらばらさ」ということである。県団は『個』の集合体からしよせんばらばらさなどというニヒルな考えはこの際、横においてもらいたい。JKACは、県連の中では最も先進的であり、活発であり、有能で有能な会であるというように、他の会からは見られている。これが真実やつなら、そのことにホコリをもたなければならぬ。しかし、そうした表面的なほやかその影で進行する危機のまえばらに、今は眼をむけなければならぬ。

ごく最近のこの「県合宿」を例にとりて話を進めよう。

この夏「合宿」は、三つの計画（当初四つだったものが、その内の二つが統合されて三つになった）が、実質的にはやはり四つの計画だったように思う（で実行されたが、これら三つの計画の間に何ら関連性が見いだせない）のである。会として、それ以外の計画に対してどういう位置付けと役割を考えたのか、全く不明なのである。そういった気では、「一つの合宿で三つの計画を実施」としたのでは無く、「三つの合宿を同時に実施」したのである。

この意味のちがいは理解していただけるだろうが、ここでは少し極端にそのちがいを考えてみよう。

一つの会宿といえは、その中でどんなルート、コース、山城さとうとうと、同一の目的をもち、同一の目標に向かってかきいに努力するということになる。技術の差、体力の差、山に対する接し方のちがひ、命令の差、経験のちがひなど前提としてその能力の範囲内で目的実現にむけて努力するということになる。ところが三つの会宿を組むということは、それそれちがことば、に目標と目的をもって行つということであり、三つの会宿の相る関連は考へる必要がない。

一つの会宿をいくつかのコースで行なう場合、その計画には各コースの責任者とともに、会宿全体を統括する総責任者がいなければならぬ。この総責任者の責任は、各コース責任者のそれより重いものとなる。しかし、三つの会宿を行つた場合、各会宿の責任者はその会宿の総責任者であり、他の二つの会宿に対して何らの責任も負ふ必要がない。

一つの会宿はらは、今回の様な上高地からのタクシーのチャーターは、全体計画を実施するための当然の仕事となるが、三つの会宿はらは、それは単に便宜をはかつてやっただけであり、北條コースの者がこのタクシーに乗れるのも、上高地バスターミナルでひろ、と同乗者と何ら変わらぬのである。

極端にいへば、「一つの会宿」と「三つの会宿」の向には、こんなに大きなちがひがあるのである。

「力量に差があるから仕方がない」といつのが唯一の及論であるが、それが「三つの会宿」を行ふ理由にならないことは、すでに明らかなである。どんなに技術の差があつたとしても「一つの計画」の中で、共通の目的に向つて努力し、お互いに向ふすることは可能である。それよりも、JKACの会費向の「力の差」位だ、たうし三

「の会宿」などまったく必要ないといえる。「カ」の差」のために「一」の計画」にできないと考えている者が本  
当にいたとしたら、それは自己の長短に対する過信か又ホレでしかない。これほどの危険はない。

再度強調すれば、全く別の山へ行っても、「一」の会宿」として計画することは可能なのである。

「三」の会宿」は相互に関係がないといったが、それは、会宿の効果の評価にもあらわれてくる。自分の参加  
した会宿が成功すれば他の二つはどうであれ関係ないのである。自分の所は「よかった、よかった」といって  
いはすれすむのである。相互に経験と交流し、学びあう必要はないのである。そういうことは、会宿の総括と  
は別の会の運営の問題となる。ところが「一」の会宿」ならば、それらのことは会宿の総括の中で行なわれるこ  
とになる。その場合、総括者の果たす任務が大きくなる。

今夏の会宿を例に、会宿のあり方にもふれて述べてきたが、これが今夏の会宿ではじめてあらわした現象では  
ないことはいうまでもない。個人山行の寄せ集めという形態の集、国登山が多くなってきた。寄せ木細工はどん  
なこととしても強い建築物にはなりえないのである。大夏荘のとあった建築物を作ることが今、JKAに求め  
られているのではないだろうか。

ともかく、すべての会員が、自分は何を求めて入会したかを振り返えり、その求めたものが実現できる会に、  
力をあわせてしようではないか。会の幹部はその先頭に立ってほしい。



事務局より

9月度予定

例会

9/26 PM 6:30より事務局にて

時間までに集まりなすべく早く  
帰れるようにしよう。

運営委員会

9/27 PM 6:30より事務局にて

議題は今後の山行計画・総会の  
打ち合わせ等

運営委員は必ず出席して下さい。

Xトコスサークルの打ち合わせ

9/28より 事務局(田中・古木)

個人山行

大井登山 9/30 4(3)日午後高尾山

参加希望者は田中まで

登山主健

9/30の山行講習会は9/30に延期です。

オナングデビイ支援カレンダー(78年版)

七枚一組 ¥1000

申込は9/26までに田中まで

※新体連(新日本体育連盟)新浮原連盟  
から回総会の議案書が来ていますので、事  
務所にありますのでみて下さい。

※登山時報、奥連ニュースはフライングとして  
事務局に置きますので全員が見るようた  
して下さい。

※本年度の登山日本連主健の登山祭東が新浮  
原を去るまで10/13迄に予定をみて下さい。  
今から日もあけるようた予定をたてて下さい。

※会費はきちんと納めよう。

もうとう総会の話が出てきますが、それま  
でには皆さんと会費を納めて下さい。

納入は上野まで

## 大衆山行を終って(創コース)

田中 進

会で企画する大衆山行も今回で五回、今回は一般ルートとしては、難コースの創コースを選んだ訳ですが、結果はまあ／＼と評価してよいのではなからうと思います。

参加人員は立山・創谷合わせて四十三名と少なかつたのですが山小屋の収容人員、創谷コースをカバーする会員数などからみて十分な数ではなからうと思います。

創谷は魅力的な山なので本当は断わる人が出るのでは……と思つたのですが意外でした。最近では以前の様に異常なホスターを結ぶ事が出来なくなり、そうした面でもやりにくかつた様子に思ひます。山行内容ですが創谷前小屋から立山コースの人達と別れて終々は創谷山荘に泊つた訳ですがメンバーなのでやはり非常に混んでおいたのですが同一の部屋に泊る事が出来た。食事迄結構時間があつたのですが、その間、通など飲みながら会員

と一般参加者が山の誘惑などに興いた訳ですがこうした雰囲気から山行には大いなるのでは……と思ひました。ただ単に一線に山に行くのだから山行ではなかつた金の良さを一番アビリティ出来る場の様に思つた次第です。

朝は三時起床、三時中起床、混雑する事もなく登山は非常にスムーズに登れました。カニの登山は登山感があり非常に心配でしたが山懐かれた人があつたといふ事は満足出来た。山頂にて大休息、記念写真の撮影は平々としたのですが登山の下り階段でよく登山者がグタ／＼と滑り落ちたりして行方不明。ついでに途中女子大生が落石で受傷してそののを聞いたあたりで皆少し緊張したみたいでした。おまわりりきものでなりけり落石／＼とやがましく言ひ通すかよくわかつたかと思ひます。降りてきたより上り坂水も事なく空室に到着。まだは暑気な方からた事が一番の収穫の様に思ふた山行でした。

## 大衆山行を終って（立山コース）

大島美昭

立山は今までの僕にとって全く頭の中になく存在であった。地図をじっくりと見たときになりぬ、立山について勉強したことをピロに等しい。それほど僕にとって心もかれる山ではなかつた。そんな人間が名目で行ったにせよ、一瞥として山行を終る最初に感じたのは、むしろの経験人となり、かたむき出歩によかつたということだ。又、山や花の説明などはずべてお氏におおきく、てしま、た感である。

山行内容は、山小屋では全要がひとつの部屋に入れたので、山や小説の語彙で花を味かき、参加者の交流を深めることができた。この様態時間をもてることが、大衆山行としてい水ほびプラスになるかは、昨年西穂へ行ったときを感じた。

入日は4時30分起床、6時発。小屋の前でラジオ体操(?)を行ない足どりを軽く覚つ。

別山で雄雄山をバックに記今早更をこる。ここからは緩緩歩を急な起伏をなくハイキング的な快の山歩をが続く。

でも雄山の人の遅延にはビクナリ。一の経までは人の間をぬって下。きえたという感がピクナリする。

重要では予定より少しくくんで到着、ここから今日の山歩の山行は終りとなる。

## 八合川金山山行

真部久美子

-6-

今日の山行目的地は金山谷間の訓練です。

ダブツの中にも各宿で使用する装備一式を詰め訓練開始。コースは西尾根止谷川金山麓新道と土谷に下山。谷川金山は標高があまりなりので私としては要要日の続く時には谷川をあまりおすすめるでせませんが岩稜地帯の多いおもしろいコースです。一度は岩稜をいらい。今日の山行で一番感じたことは水の大切をでした。



映画「同胞」

9月(日)に厚生会館

(高田大島)に於て  
行なわれる。

料金 前席 500円  
後席 400円(500円)

大人 600円(700円)

少年 400円(500円)

時間

19時

19時

19時

19時

高田大島に於て

以上「同胞」の上映

より中入の取り決

した。

高田大島に於て

より中入の取り決

した。

●新入会員紹介

○岩野亮子

上越市本町174

電話 1-6029

530-8-12 日五

上越児童相談所24-3355

○秋原妙子

中興村秋崎234

電話 1-6029

530-8-12 日五

上越児童相談所24-3355

○野川

●編集後記

個人納金部会が、更  
新が早く、数ヶ月に  
ましまが、今日の如し  
いけします。

昨午、秋原より、送付  
てきた通信教育の原  
料、ガートと名を、ん  
か、今宵にまたあつて  
提出し、一段落。

こゝろ、山、山、山  
市、市、市、市、市、市  
市、市、市、市、市、市

善、善、善、善、善、善  
心、心、心、心、心、心  
この、この、この、この、この、この



発行日 1977年8月25日